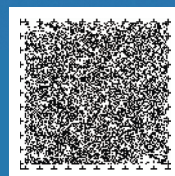


第2期 京都府スポーツ推進計画

令和6（2024）年4月
京都府教育委員会



「Uni-Voice」
※音声コード

計画改定の趣旨

京都府では、平成26(2014)年に今後10年間を見通した本府のスポーツ推進に関する基本計画として「京都府スポーツ推進計画」を策定(平成31(2019)年改定)し、スポーツに関する施策を総合的に進めてきました。

この間、国内においては人口減少・長寿社会の到来や、様々な技術革新の急速な広がり等によるライフスタイルの変化、新型コロナウイルス感染症による影響からの回復、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「スポーツ・レガシー」の継承・発展など、スポーツを取り巻く社会環境は大きく変化し、令和4(2022)年には、スポーツ庁が「第3期スポーツ基本計画」を策定しました。

このような社会の変化と、令和4(2022)年12月に策定した本府の総合的な計画である「京都府総合計画」を踏まえ、スポーツに誰もが親しみ夢が広がる社会、誰もがスポーツの分野で能力を生かして活躍できる社会の実現に向けて各施策をより一層、総合的かつ計画的に推進するために「第2期京都府スポーツ推進計画」を策定しました。

計画の期間

本計画の期間は、令和6(2024)年度から令和15(2033)年度までの10年間です。

なお、社会情勢の変化等により、スポーツを取り巻く環境の大きな変化にともない計画を見直す必要が生じた場合は、「京都府スポーツ推進審議会」等の意見を踏まえ、適切に対応します。

本府の運動・スポーツに関する現状と課題

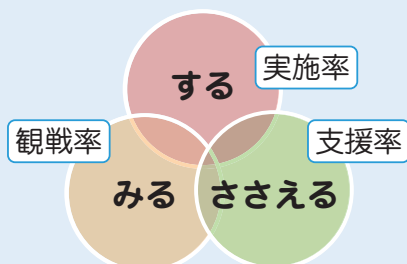
(1) 成人のスポーツ関連率

○スポーツ実施率

週1回以上の運動やスポーツを行った成人の割合は前計画目標値「65.0%以上」に対し、令和4(2022)年は57.2%となっています。平成26(2014)年の「京都府スポーツ推進計画」に示したライフステージやライフスタイルに応じた運動・スポーツの推進に向けた取組の結果、スポーツ実施率は上昇し一定の達成度を得たと考えられます。引き続き、目標達成に向け、府民のスポーツ実施に向けた環境整備や機運醸成を行う必要があります。

○スポーツ関連率

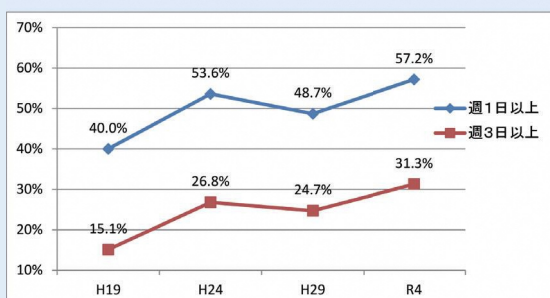
令和4(2022)年、週1回以上スポーツに「する」「みる」「ささえる」のいずれかに関わった成人の割合は70.8%となっています。今後はスポーツに関わるきっかけが増えることが求められています。



「スポーツ関連率」：1週間に1度以上スポーツに「する」「みる」「ささえる」のいずれかにおいて関わりがあった人の割合

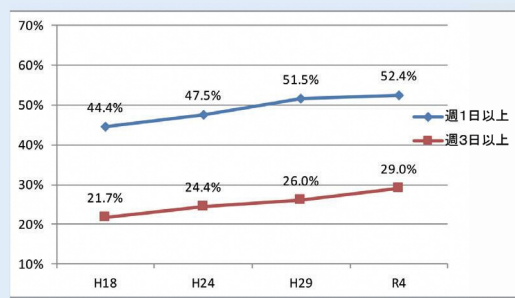
「スポーツ実施率」：1週間に1度以上スポーツを実施する人の割合
「スポーツ観戦率」：1週間に1度以上スポーツを観戦する人の割合
「スポーツ支援率」：1週間に1度以上スポーツの手伝いや世話をする人の割合

【京都府】

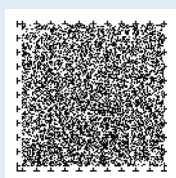


<出典>「京都府民のスポーツに関する実態調査」(京都府教育委員会)

【全国】



<出典>「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(スポーツ庁)



「Uni-Voice」
※音声コード

(2) 子どものスポーツ実施率

- 学校の体育の授業以外で週1回以上の運動・スポーツをしている子どもの割合は、各年齢とも男子の方が女子より高くなっています。また、実施頻度は中学校でピークとなり、高校入学後は低下がみられます。
- 高校では、特に女子において「運動をする・しない」の二極化がみられます。
(高校女子(17歳) 週3回以上の実施率…37.7% 月1回以下の実施率…37.7%)

(3) 京都ゆかりの選手の国際大会・国民体育大会成績

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及び北京2022オリンピック・パラリンピック競技大会では、計59名の京都ゆかりの選手が参加し、計9個のメダルを獲得しています。
- 国民体育大会において、本府の目標とする男女総合成績常時入賞(8位以内)は、京都府スポーツ推進計画(平成26年)の策定以降では、茨城国体(令和元年)で達成しました。

(4) 京の子どもダイヤモンドプロジェクト「京都きっず」

- 本府では優れた素質があるジュニア選手の発掘(小学校3年生)・育成(小学校4年生～中学校3年生)を行い、将来我が国を代表するアスリートとして国際大会でのメダル獲得を目指すとともに、その経験を活かし確固たる考えと行動力を持ち、豊かで明るい社会の発展に貢献できる若人の人材育成を目指して取り組んでいます。

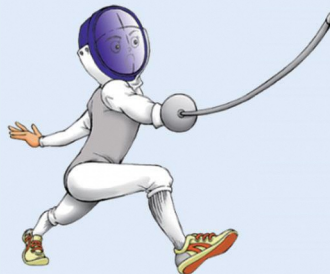
【第1期実施種目修了生の主な成績】

- ・フェンシング 2023年世界選手権男子フルーレ団体優勝、特別国民体育大会成年女子団体優勝
- ・バドミントン 2023年日本代表選手選出
- ・カヌー 2023年特別国民体育大会男子カヤックシングル入賞

【第2期実施種目】



ローイング(ボート)



フェンシング

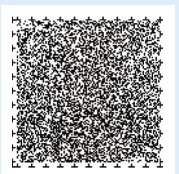


スポーツクライミング

新たな視点「マイスタート KYOTO - SPORT - STYLE」

これまでスポーツ施策の目標は、「する」スポーツ単体での目標設定がほとんどであり、「する」ことに興味のない層が取り残されていました。本計画では、運動・スポーツとの関わり方には、府民それぞれに「する」「みる」「ささえる」といった様々なきっかけがあるという新しい流れを生み出すため、新たな視点「マイスタート KYOTO - SPORT ※ - STYLE」を推進します。

※ SPORT … SPORTS(複数形:運動・スポーツの中のいくつか)の表記ではなく、SPORT(単数形:すべての運動・スポーツ)とすることで、すべての運動・スポーツの中からきっかけが生まれ、それを原点として、府民それぞれの運動・スポーツが始まる⇒「マイスタート」を表現している。



【Uni-Voice】
※音声コード

① スマートスポーツ（生涯スポーツ分野）

目 標

府民の誰もが、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツに親しみ健康で元気な生活確立し、スポーツを通じた地域の絆づくりを進めます。

成人の週1回以上運動・スポーツ実施率

（現状） 57.2% → （目標値） 70%

スポーツイベントへの参加数（府民総体参加数）

（現状） 34,671人 → （目標値） 50,000人

週1回以上運動・スポーツとの関わりをもつ成人の割合

（現状） 70.8% → （目標値） 100%に近づける

柱1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進

- ① 子育て世代に向けた、家族・地域みんなで交流できる運動プログラムの活用
- ② 「健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）」の普及啓発
- ③ 多世代交流の推進 ～高齢者が地域の中で生きがいのある生活を～
- ④ 京都式介護予防総合プログラムの普及による介護予防の推進 ～ライフコースアプローチを踏まえた取組～
- ⑤ 親しみやすいスポーツ・レクリエーション活動やスポーツ以外の要素を取り入れた運動・スポーツの推進

柱2 パラスポーツを通じた共生社会実現に向けた取組の推進

- ① パラスポーツの普及啓発の推進 ～イベントだけではなく障害者が日常的にもスポーツを～
- ② 共生社会実現に向けた取組の推進 ～障害のある人もない人も共にその能力を生かして活躍し、運動・スポーツに親しむことができる～

柱3 府民が手軽に参画できる地域スポーツイベントの充実

- ① 京都府民総合体育大会の充実 ～スポーツが誰にとっても活力を得るものであるために、集い、競技し、交流できるイベント～
- ② 歴史、文化、観光、遊び分野を含めたスポーツイベントの推進 ～文化庁の京都移転を契機とした様々な分野との総合的な施策～
- ③ コミュニティを深める地域スポーツイベントの充実
- ④ 「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」への派遣と地域活動への参加

柱4 日常生活の中に運動・スポーツを位置づけるための示唆や環境の充実

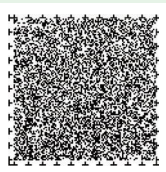
- ① 生活習慣改善による健康寿命延伸のための取組促進
- ② 人とのつながりを大切にする公民館等での運動サロン、地域の公園でのつどいの拡大
- ③ 誰もが気軽に運動・スポーツに親しめる情報発信の充実
～対象となる年齢層、府民のニーズや社会の動向等を意識した広報ツールの活用～

柱5 運動・スポーツを通じた豊かな地域コミュニティの創造

- ① 総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」という。)の登録・認証制度の普及、及び地域課題を解決する社会の実現
- ② 総合型クラブやスポーツ少年団などと相互扶助を築く関係団体との連携による地域スポーツの充実
- ③ 京のジュニアスポーツアカデミー構想の推進 ～少子化において、子どもたちがやりたいスポーツに取り組むことができる環境～
- ④ 学校部活動の地域連携・地域移行
～部活動を単に学校から切り離すということではなく、地域全体で子どもたちのスポーツ体験の機会を確保～
- ⑤ プロスポーツ団体と府民が一体となった活動の推進

柱6 京都の地域資源を活かした運動・スポーツによる地域活性化

- ① スポーツツーリズムの推進
- ② 全国駅伝大会の推進 ～駅伝発祥の地をスポーツ観光の聖地化へ～
- ③ ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催
～生涯スポーツの機運を高め、大会を契機としたスポーツボランティアなどの「ささえる」スポーツを充実～
- ④ プロスポーツ団体と府民が一体となった活動の推進【再掲】



「Uni-Voice」
※音声コード

②エンジョイスポーツ（子どもスポーツ分野）

目 標

子どもの頃から体を動かす楽しさや運動・スポーツのたのしさを味わうことにより、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる健康的な生活習慣を確立します。

子どもの運動習慣（1週間に60分未満の割合）

（現状） 小学校 **12.7%** （目標値）
中学校 **13.0%** 小・中学校で**半減**させる
※就学前の子どもの運動機会の場を府内全域に展開

子どものスポーツ意欲（卒業後のスポーツをしたいと思う）

（現状） 小学校 **86.0%** （目標値）
中学校 **81.6%** 小・中学校で **90% 以上**

子どもの体力（新体力テストの総合評価C以上）

（現状） 小学校 **64.0%** （目標値） 小学校 **80.0% 以上**
中学校 **72.2%** 中学校 **85.0% 以上**

柱1 運動・スポーツが好きになる工夫

- ① 体を動かすことが好きになる取組の充実
- ② 幼児期のスポーツ・レクリエーション活動の普及
- ③ 幼児期から基本的な動きの獲得及び運動習慣の確立
～外遊びを中心に、楽しみながら必要とされる動きを身に付ける～
- ④ 家庭における運動機会の充実
- ⑤ トップアスリート等との交流の充実

柱2 発達段階に応じた運動・スポーツの推進

- ① 体づくりをより効果的に行うための健康教育の充実 ～食に関する正しい知識や自己管理能力を身に付けることができる健康教育の充実～
- ② 学校や地域での「体力向上推進プロジェクト」の推進 ～体育の授業は、すべての子どもたちに確保された運動・スポーツに親しめる時間～
- ③ 総合型クラブやスポーツ少年団などとの連携による地域での児童生徒の活動環境の整備
- ④ 障害のある児童生徒の体育・スポーツ活動の推進

柱3 学校や地域における子どもの運動・スポーツ機会の充実

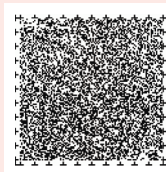
- ① 京のジュニアスポーツアカデミー構想の推進【再掲】
- ② 学校部活動の地域連携・地域移行【再掲】
- ③ 運動部活動の充実

柱4 子どもたちの「スポーツごころ」を芽吹かせる指導者の育成と支援

- ① 運動部活動指導にあたる教職員の資質向上に向けた学校体育関係団体との連携・協力
- ② スポーツ医・科学関係団体等と連携した研修の充実
- ③ 退職教員等の優れた指導力を持つ人材の活用

柱5 国際大会を契機とした「スポーツごころ」を醸成する取組の推進

- ① 「スポーツごころ」を誘う事業の展開
～オリンピック・パラリンピアンとの交流や、オリンピック・パラリンピックの理念や意義、歴史学習等の学び～
- ② 共生社会の実現に向けた教育の推進 ～アダプテッドスポーツ等を通じた特別支援学校と他校種の児童生徒との交流活動～
- ③ オリンピック・パラリンピック教育により創出されたレガシーの継承



「Uni-Voice」
※音声コード

③ チャレンジスポーツ（競技スポーツ分野）

目 標

ジュニア期のアスリート発掘・育成システムを確立するとともに、京都府が誇るトップアスリートや指導者の活躍を支援し、府民と夢や感動を共有します。

京都府ゆかりの選手の活躍

（推進指標） 京都府ゆかりの選手が国際大会で毎年メダルを獲得

国民スポーツ大会での毎年入賞

（推進指標） 京都府選手団の男女総合成績常時入賞（8位以内）

大会の誘致

（推進指標） トップアスリートのプレーが身近に観戦できる
大会の誘致

柱1 未来に羽ばたくジュニアアスリートの育成

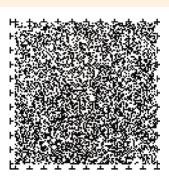
- ① ジュニアアスリート強化育成システム支援
- ② 学校や地域に強化拠点を設けた育成強化支援
～地域に根ざしたジュニア世代のスポーツ活動の活性化～
- ③ 「京の子どもダイヤモンドプロジェクト」の推進とジュニアアスリート育成システムの構築
～ジュニア期からの一貫指導～
- ④ 全国や世界の舞台で活躍するジュニアアスリート支援
- ⑤ ジュニア期における体づくりのための望ましい食習慣の実践研究及びその普及推進

柱2 京都府を拠点に活躍するトップアスリートの育成

- ① 地域活性化を視点にした地域ならではの競技スポーツの推進
- ② 京都トレーニングセンターの活用によるスポーツ医・科学サポート体制の充実と活用
- ③ アンチ・ドーピング教育の推進
- ④ 競技団体・企業と連携したトップアスリートの経済的支援、就労支援の推進
- ⑤ 障害者トップアスリートの競技力向上方策の充実

柱3 社会性豊かなアスリートの育成に向けた指導者の育成と競技団体等の組織体制の充実

- ① 京都府教員採用選考試験におけるスペシャリスト特別選考の実施
～高い競技力とともに、指導者としてふさわしいパーソナリティを有するアスリートを教員に～
- ② コーチング方法論やスポーツ医・科学などを多角的に学ぶ研修の充実
- ③ 技術指導だけでなく、キャリア教育を含めアスリートの社会性、人間性を伸ばす指導者の育成
- ④ 女性指導者の活動をサポートする体制や環境づくりの推進
- ⑤ パラスポーツ指導者の育成・確保
- ⑥ 競技団体との連携による若手指導者の育成・拡充
- ⑦ 京都府内の競技団体と全国の上部団体、ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）・ナショナルトレーニングセンター（NTC）等との連携促進



「Uni-Voice」
※音声コード



④ スポーツ環境の充実（環境充実分野）

目 標

青少年の夢やあこがれの場となり、
府民の誰もが親しみの持てるスポー
ツ環境の充実を進めます。

運動・スポーツに親しめる場の充実

（推進指標） 安全で持続可能な地域スポーツ環境の質的充実

運動・スポーツができる環境の充実

（推進指標） 運動・スポーツを「する」「みる」「ささえる」こと
ができる環境の充実

スポーツ環境の健全性・安全性の確保

（推進指標） コンプライアンス違反や体罰・暴言等の根絶及び
スポーツ団体のガバナンス強化

柱1 スポーツ施設の充実と有効活用（ハード）

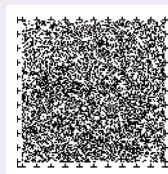
- ① 子どもたちの夢とあこがれの舞台となり、府民が誇りを持つことができる施設環境の充実
～国際大会等の誘致に必要な屋内スポーツ施設の充実～
- ② 新しいスポーツニーズに対応することができる施設環境の充実
～ユニバーサルスポーツやアーバンスポーツ、eスポーツ等の新しいスポーツニーズに対応～
- ③ 誰もが使いやすく手軽に運動・スポーツを楽しめるスポーツ施設環境の充実
～既存施設のバリアフリー化、インクルーシブな空間にする環境づくり～
- ④ 老朽化等への対応

柱2 スポーツ環境の構築（ソフト）

- ① 生涯スポーツの普及推進と環境整備
～総合型クラブの基盤強化やクラブの創設・育成支援、総合型クラブ運営に係る若手スタッフの質的向上に向けた支援、市町村との連携～
- ② スポーツ団体等の組織体制の充実
～ガバナンス強化に向けた取組、スポーツ・インテグリティの向上～
- ③ 女性のスポーツ参画機会の拡充
- ④ スポーツ界におけるDXの推進
- ⑤ 誰もが手軽にスポーツに関する情報を得ることができる環境の充実
～多様な広報ツールを活用し、より多くの府民に提供できるように情報を発信～

柱3 運動・スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保（人材）

- ① スポーツを「ささえる」人材の育成
～指導者、ボランティア、サポーター等、スポーツを「ささえる」人材の育成～
- ② 多様なニーズへのスポーツ指導が適切にできる指導者の育成
- ③ 地域コミュニティの創生を目指すスポーツ推進委員の育成



「Uni-Voice」
※音声コード

～京都府民みんなが持ちたい「スポーツごころ」～

人々は、日々の生活の中で「よしっ!」「さあ!」「やってみよう!」という前向きで積極的な気持ちを持って行動しています。その前向きな「心のありよう」が、誰もが持っている「スポーツごころ」です。

この「スポーツごころ」を「芽吹かせ」「広め」「深め」「高める」ことを本計画では、テーマとしました。

府民の「QOL (Quality of Life 生活の質)」の向上に大きな役割を果たすスポーツの意義や価値を考慮し、これからも引き続き「スポーツごころ」をテーマとしたスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進します。

スポーツごころ

感動：強く心を動かされたい。また、動かしたい。
楽しみ：興味を持って、楽しくありたい。
向上：さらなる進化を求めたい。
健康：心も身体も健やかでありたい。
挑戦：未知の世界へ立ち向かいたい。
つながり：人との結びつきを大切にしたい。
公正：思いに偏りなく、正しくありたい。

京都府独自の新しい視点

マイスタート KYOTO – SPORT – STYLE

～スポーツのきっかけは「する」「みる」「ささえる」のどこからでもOK!それぞれのマイスタートを切ろう!～



府民の「スポーツごころ」を芽吹かせ、広め、深め、高めることは、「スポーツを通じた元気な京都府」という大きな花を咲かせます。そのため、本計画では、府民それぞれがスポーツへの様々なきっかけをつくれるよう、4つの花びらに運動・スポーツに親しめる取組を乗せました。

スポーツのきっかけは「する」「みる」「ささえる」のどこからでもOKです。京都府独自の新しい視点「マイスタート KYOTO-SPORT-STYLE」を持ち、それぞれのマイスタートを切ってみましょう!

